

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	他者評価のメカニズムの検討：加速度モデルによる分析				
研究組織	代 表 者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	玉利 祐樹
	研究協力者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	玉利 祐樹

講演題目
加速度モデルによる対人評価の検討
研究の目的、成果及び今後の展望 近年、ソーシャルメディアの普及により、他者の失敗や瑕疵に対する過剰な指摘や糾弾が可視化されるようになった。また、ランキングや偏差値など、他者との相対的位置を示す情報も容易に共有され、その順位は時間とともに変動する。このような相対位置およびその変化情報の入手容易性が、他者への評価の厳しさに影響を与えている可能性がある。 相対位置を正規分布 $N(\mu, \sigma)$ に基づく偏差値で捉えると、$\mu \pm \sigma$ 付近では順位変動が大きくなる。人は変化に注意を向ける傾向があるため、相対位置の変化の速度や加速度が他者評価に影響する可能性が考えられる。竹村他（2020）は、COVID-19に関する社会的関心が感染者数だけでなく、その変化速度や加速度に依存することを示す加速度モデルを提案している。本研究ではこの枠組みを援用し、正規分布の累積分布関数を位置（x）、確率密度関数を速度（v）、その1階微分を加速度（a）と定義し、他者評価Cを $C = w_x x + w_v v + w_a a$ により表現する。また、wは各変数に対する重みである。 実験では成人を対象に、相対位置フィードバックを伴うゴルフゲーム課題を実施した。参加者はゲーム終了後に偏差値（40～60の7水準）を提示され、その後、他者のプレイ動画を2本視聴し、各プレイをGood/Badで評価した。動画は自身より上位・下位に対応するよう作成され、提示順序はランダムとした。評価指標として、上位・下位それぞれに対するGood/Badの度数、平均値、差分、割合の計6指標を算出し、対数変換を行った。 位置（x）、速度（v）、加速度（a）を独立変数とする回帰分析の結果、標準偏差5条件では、上位動画に対するBad評価において、xおよびaが有意であった。すなわち、相対位置および加速度が高まるほど、他者への評価は厳しくなくなる傾向が示唆された。一方、標準偏差10条件では、上位へのBad評価に対するxの効果に加え、「狙いの正確性」にはv、「方向感覚」にはaが有意に関連した。 これらの結果から、相対位置のみならず、その変化の速度や加速度を考慮することで、他者評価の形成を説明できる可能性が示された。ただし、本研究では動画の相対的な上下関係を明示していなかったため、参加者がそれを正確に認識していなかった可能性がある。今後はこの点を改善する必要があるが、加速度モデルの観点から、相対情報の提示方法を工夫することで過剰な批判の抑制や適切な集団運営に資する可能性が示唆される。